

人権情報誌

# あい・ゆ

I・YOUきょうと

わたしとあなた.....。  
それぞれが「愛」と「優」の心をいつも大切に  
たがいを認め、支え合うまち・京都を。

# KYOTO

2003.12  
vol.15



●ヒューマンボイス — 2

私の前向きな音楽は  
多くの痛みと  
多の人との出会いが  
あったから



シンガーソングライター 平松愛理さん

●特集 — 5

## 高齢者の人権を考える

●人 輝いてまーす! — 8

## 野球を通して 国境や民族を超えた 感動を伝えたい

京都韓国学園野球部主将 李 良剛さん

●こんなこと・あんなこと みんなの広場 — 10

「市役所ぐるり探訪」保健福祉局 障害企画課

## 私の前向きな音楽は 多くの痛みと 多くの人との出会いがあったから

デビューから12年間、子宮内膜症と闘いながら、音楽活動を続けてこられた平松愛理さん。1995年（平成7）に起こった阪神淡路大震災では、実家が全壊するという被害に遭い、その後、毎年1月17日には神戸でコンサートを開いて、被災された人々を励ましてこられました。2年前に子宮を全摘出、更に、乳がんの手術を受け、現在休業中ですが、2004年のデビュー15周年に向け、活動再開のための準備をしているそうです。多くの苦難を乗り越えてきた平松さんに自身の音楽と生き方について語っていただきました。

シンガーソングライター  
平松愛理さん

Eri  
Hiramatsu



### 子宮内膜症の痛みは 心の痛みを書くために与えられたもの

3歳からピアノを始めて、ずっと詩や曲を作っていました。自分で作った曲を初めてステージで演奏したのは15歳の時でした。16歳からはバンド活動を始め、その頃からプロになろうと決心し、コンテストに出たり、ライブハウスで演奏したりといった音楽人生がスタートしました。当時、女性のバンドは珍しく、神戸祭や男子校の文化祭に呼ばれるなど、色々なところで演奏しました。あらゆるコンテストを受けて、20歳の頃から東京でも活動を始め、26歳でようやくデビューすることができました。コンテストで賞を取って、1位になって...というシンデレラストーリーでは全くありませんでした。1度も1位になったことはないですね。良くて銅賞止まりでした。

デビューとほぼ同時に子宮内膜症を患いましたが、やっとデビューできた矢先だったのと、私のためにみんなが苦勞して仕事を取ってきてくれることを考えると、痛みのために仕事をキャンセルすることは到底できませんでした。3歳から呼吸をするのと同じように続けてきた音楽をやめることは考えたこともありませんでした。

何度も入退院を繰り返す中、がんや難病を患っている多くの人たちに巡り合いました。「生きられるだけいいじゃない」と私を励ましてくれた末期がんの方、病院の廊下で「つらいなあ、がんばりやあ」と背中をさすってくれたおばあちゃんなど、病気と闘っている人たちからもらったエネルギーは計り知れません。そんな方たちの強さに触れ、「こんなことで負けていけないんだ、この病気の痛みは、私が音楽を通して人の心の痛みを書くために与えられたものなのだから、ギブアップしてはいけないんだ」と思いました。子宮内膜症の痛みは、私の曲作りにとっても影響しています。体が痛いとも痛みますから、人の心に非常に敏感になるのです。

### 人の心を動かす“歌の力”を 信じているから私は歌い続ける

阪神淡路大震災後、初めて神戸に帰った時は、まるで映画のロケ地かと思うような、とても現実とは信じられない状況でした。デイバックを背負った大勢の人が防塵マスクをし、無言で三宮のフラワーロードを歩いている光景を見た時に初めて大変なことが起きたん



だと実感しました。神戸市役所に出向いた私に、ボランティアの人たちは「平松さんは歌で励ましてください」と言われました。ちょうどその頃、淡路島出身で、作詞家の阿久悠先生から、「いっしょに曲を作りませんか」とお誘いをいただき、こうして生まれた曲が『美し都 がんばろうや、We love KOBE』でした。

震災で全壊した私の実家は開業医で、隣は酒屋さんの倉庫でした。大量の酒ビンが置いてあったのですが、父は散乱したビンを片付けて、落ちた錠剤を拾い、点滴も使えるものを使って、次の日から無料で患者さんを診ていました。父の姿を見て、私にもまだ何かできることがあるんじゃないかと思い、その年の夏、チャリティイベントに出演しました。でもその日から熱が下がらなくなってしまいました。それが妊娠だったのです。妊娠中、前置胎盤（胎盤が子宮の下方に着床して、産道をふさいでいる状態）が発生し、一時は母子共に危険な状態になりましたが、96年2月20日、無事に娘が生まれ、その翌年からは再び震災イベントの仕事を行うようになりました。

私がこれまで歌ってこられたのは、娘がいたからです。娘の名前は「初一音(はいね)」と言います。お腹の赤ちゃんが女の子だと分かった時から、そう名付けようと思っていました。名前の最後に「音」と書いて「ネ」と読ませ、祖母が大好きだったドイツの詩人の名前にあやかりたいと思ったからです。姓名判断でも最高の字画だということで、「初めてのたった一つの音」と名付けました。前置胎盤のため帝王切開での出産となったのですが、娘が産まれた時に、絶対にしてあげたいことがありました。それは「Happy Birthday」を名前入りで歌ってあげること。病院の先生方には、横隔膜まで麻酔がかかっているから無理だと言われたのですが、息が絶え絶えになりながらも歌いま

した。その時、娘が首を動かしているのを見て、「私の声が届いているんだ」と本当に感動しました。痛い思いをしながらの仕事と子育ては大変だけれど、娘が生まれた時に歌った「Happy Birthday」が歌の力を改めて教えてくれました。この体験は私の音楽活動の大きな原動力となっているのです。

## 私にとっての「音楽」 それは前向きに生きていく実感を 感じさせてくれるもの

私には、重度の障害を持つ「けいちゃん」という文通友達があります。彼女は、言語障害があるうえ、座ることもできず、食べることや飲むことも一人ではできません。けいちゃんは一語ずつ足でタイプを打って私に詩を贈ってくれるのですが、彼女の詩は本当に素晴らしいのです。自分で歩いていないのに、丘の緑の美しさや風の香りが描かれていたり、とてもキラキラしていてグローバルで、自分を客観的に見ているのです。彼女は私の心の友、「心友」ですね。



### Profile

平松愛理（ひらまつ・えり）  
1964年兵庫県生まれ。89年アルバム『TREASURE』、シングル『青春のアルバム』でデビュー。92年シングル『部屋とYシャツと私』、93年アルバム『Single is Best』がミリオンセラーとなる。また92年日本レコード大賞作詞賞、93年第24回日本歌謡大賞放送音楽プロデューサー連盟賞を受賞する。89年子宮内膜症による激痛との苦闘が始まるが、94年アレクサンダーの清水信之さんと結婚。96年には奇跡的に長女・初音（はいね）ちゃんを出産。01年6月右卵巣と子宮全摘手術を受け、8月には自身の12年間の子宮内膜症との闘いを綴った著書『ケキツ〜子宮内膜症との闘いの日々〜』（講談社刊）では、89年のデビューから13年間の真実を初告白。「まだ見ぬ我が子」へのメッセージと子宮全摘手術までの日記を合わせて公開した。子宮内膜症に悩むすべての女性と、心や体に“痛み”を持つすべての人へのメッセージが込められている。

彼女と出会ってから、私も体が痛くても、今日はいい天気  
で気持ちがいいなとか、<sup>きんもくせい</sup>金木犀がいい香りだなと感じたり、  
周りに感謝の気持ちを持つことや自分を客観的に見ることが  
できるようになってきました。

なぜ私だけこんな思いをしなければいけないんだろう、  
なぜ私だけ病気が続くのだろう、なぜ普通に生きてさえい  
ればもらえる権利までも奪われてしまうのだろう、と自分  
の中で日々懸命に答えを探そうとして苦しみましたが、  
「これは偶然ではなく、必然なのだ」という答えが見付か  
った時、気持ちも随分と楽になりました。

今、平松愛理としては休業中ですが、デビュー15周年  
に当たる来年（2004年）は活動を再開したいと思ってい  
ます。音楽活動はもちろん本も出したいで  
すね。デビューできたこと、子宮内膜症を  
12年間患ってきたこと、妊娠できたこと、  
前置胎盤で母子共に生きるか死ぬかの状況  
だったこと、非常に少ない可能性のところ  
を歩み続けて今ここに生きている、とい  
うことなどを綴っていきたいと思ってい  
ます。そして出産後、子宮を摘出し、今度は  
乳がんになった私の症例を人生の一つのサ  
ンプルとして広く伝えたいですね。子ども  
や夫、家族の存在は大きく、また支えにな  
るけれど、アグレッシブに自分が生きて  
いるという実感を毎日感じさせてくれる  
もの、それは私にとっては「音楽」なの  
です。平松愛理としての曲が書けるようにな  
ったら、みんなの前で歌いたい。「歌って  
いるママが大好き！」と、娘も言ってく  
れるから。

痛みのない元気な自分にあこがれていた  
私は、テレビでも人前でもいつも笑って  
いました。曲作りでも「部屋とYシャツと私」  
に代表されるように、私は結婚できないか  
もしれないけれど、「こんな風になれたら  
いいな」というあこがれを込めて曲を書  
いていたのです。痛いから、ともすれば、後  
ろ向きになってしまいがちな自分を前に向  
かせるためには、そうさせる言葉が必要だ  
ったのです。私の中でこうでありたいとい  
うことがたくさんあるからこそ、前向きな  
詩が多かったのです。「平松さんって前向  
きな方なんですね」とよく言われますが、  
そうじゃないのです。今も日々前向きな  
ことを一生懸命に探しているんです。

特集

# 高齢者の人権を考える



日本人の平均寿命は女性が85.23歳、男性が78.32歳（厚生労働省「日本人の平均余命 2002年簡易生命表」）で、2015年（平成27）には4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えます。一般に65歳以上の人を“高齢者”と呼んでいますが、仕事や趣味に意欲を持って取り組み、社会で活躍しておられる高齢者の方もたくさんおられます。

その一方で、身体能力や判断能力が衰え、身体的・心理的虐待をはじめ、財産侵害など、様々な不利益な行為を受ける方もあり、高齢者の人権問題が大きくクローズアップされています。

今回は、誰もが幸せに、安心して、いきいきと人生を楽しむことができる社会を実現していくために、私たちが守っていかなければならない高齢者の人権について考えます。これを機会に皆さんも高齢者の人権の問題を、すべての世代にわたる問題として、一人一人がしっかりと考えてみてください。

## 頑張っておられます 京都市の高齢者の皆さん ～ねんりんピック徳島2003のご紹介～

高齢者の皆さんを中心とする健康増進や生きがいづくりのためにスポーツ大会や文化イベントなどを実施する総合的な祭典「全国健康福祉祭(ねんりんピック)」が今年は10月18～21日に徳島県で開催されました。

### [ スポーツ大会 ]



個人戦 団体戦共に  
好成績を収められた  
社交ダンス京都市代表の皆さん



開会式で入場行進する  
京都市選手団の皆さん

### [ 美術展 ]



書の部・金賞

「春望」 河原英世さん(西京区)

書の部・銀賞

「元顕儻」 大西浩司さん(左京区)



日本画の部・銀賞

「嵯峨釈迦堂」 勝島英樹さん(右京区)



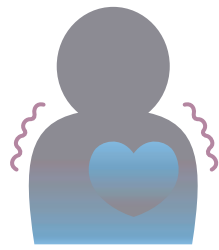
## 高齢者に対する人権侵害には次のような5つのケースがあります。

### 身体的虐待



殴る、蹴る、つねる、押さえ付けるなど、高齢者に身体的な暴力を振るうことです。薬を不適切に服用させたり本人の意思に反して身体を拘束する場合もこれに含まれます。

### 心理的虐待



言葉による暴力(脅迫、暴言、侮辱など)で、高齢者をおびえさせる精神的な苦痛を与えるあるいは意図的に無視して高齢者に疎外感や孤立感を感じさせたりすることです。

### 経済的虐待



高齢者の意に反して年金を渡さない(取り上げる)貯金や土地、家屋を無断で処分するなど、高齢者が持っている財産を奪い、高齢者に経済的なダメージを与えたりすることです。

### 放棄・拒否・怠慢による虐待(ネグレクト)



必要な介護をしない、食事を準備しない、治療を受けさせないなど、高齢者の健康状態を損なうような状態にする、また外出や会話を禁止するなど日常生活上の制限を加えたりすることです。

### 性的虐待



高齢者の意に反した性的暴行、性的嫌がらせを行うことです。夫婦間の強制的な行為、痴ほうなどで判断能力を失っている高齢者への性的暴行もこれに含まれます。



# 高齢者の人権を守っていくために

高齢者の皆さんが必要な時に適切なケアを受けながら社会の一員として色々な場面に積極的に参加でき、自分の経験や知識をすべての世代と分かち合える、そんな社会を築くために京都市では平成15年3月に「京都市民長寿すこやかプラン」を策定し、様々な高齢者福祉の取組を進めているところです。

一人一人の高齢者の皆さんが自由と権利を守られ、住み慣

れた地域で安心して生活を送っていただくためには、本プランの推進はもちろんのこと、高齢者自身が自分の可能性を進展させ、周りの人たちも高齢者の意欲と能力を活用していけるよう、すべての市民の皆さんが高齢者の人権について正しく理解し、これを擁護していくことが必要です。

本市では高齢者の人権について市民の皆さんに一層の理

解を深めていただくため、「京都市長寿すこやかセンター」などで、痴ほうや介護、それに伴う虐待問題についての相談事業などを行うとともに、関係諸団体の皆さんとも連携しながら、「成年後見制度」(注)など高齢者の人権に関する今日的なテーマについても、積極的にシンポジウムやセミナーなどを行っています。

(注) 精神上の障害により判断能力が十分でない方(痴ほう性高齢者、知的障害者、精神障害者等)に代わって契約の締結を行うなど、援助する人を選任することによってこれらの方本人の権利を擁護する制度

## 高齢者の気持ちに立った親しみある相談事業



京都市長寿すこやかセンター  
事業部主事  
社会福祉士  
しげのり  
池本薫規さん

最近の社会世相を反映して、痴ほうなどで正しい判断ができない高齢者の財産を処分したり、法外な値段で商品を買付けたりする経済的侵害、あるいは介護を放棄するといった相談が増えています。

また、家族や親しい友人が加害者である場合も多く、その相談内容は複雑で深刻なものになっています。

しかし、そうした家族や親しい友人も、家庭内や地域社会の中で様々な問題を抱え、一人で悩み、やむを得ず虐待や権利侵害を行っているという現実も見逃してはいけません。私たちは相談者の気持ちも考慮しながら、少しでも高齢者の不安を解決できるような親身なアドバイスを心掛けています。

虐待をはじめとする権利侵害は、正しい知識と早期発見、早期相談が非常に重要です。「家庭内の問題だから...」と考えるのではなく、まずは当センターや最寄りの相談窓口をお訪ねください。

## 高齢者に関する相談・研修・情報発信の拠点

# 京都市長寿すこやかセンター

京都市長寿すこやかセンターは、介護とりわけ痴ほう問題についての専門機関として、また高齢者に関する総合情報センターとして、高齢者の人権を守る中核的な役割を担っています。本センターでは、保健師や社会福祉士、専門の医師などが、痴ほうや介護についての相談に当たるほか、弁護士による法律相談や虐待問題に関する相談

などを受け付けています。

また、本センターでは高齢者自身やその家族が権利侵害に遭った時、まず相談をしていただける開かれた窓口として、「高齢者110番」も開設しています。権利侵害を発見された場合などは、すぐにお電話ください。秘密の厳守はもちろん、匿名での相談も受け付けています。

### 京都市長寿すこやかセンター

下京区西木屋町上ノ口上  
梅湊町83番地の1(河原町五条下る東側)  
「ひと・まち交流館 京都」4階

TEL. 354-8741  
FAX. 354-8742

月～土曜日 / 午前9時～午後9時30分  
日曜日・祝日 / 午前9時～午後5時  
休所日  
毎月第3火曜日 年末年始

### 痴ほうと介護などについての相談

一般相談 / 保健師・社会福祉士などによる相談 **随時**  
専門相談 / 医師による相談 **予約制**  
毎週月曜日の午後(第1週のみ火曜日の午前)  
毎週水・金曜日の午後

### 法律相談

痴ほうに伴う法律問題や虐待問題などについての弁護士による相談  
毎月第2・4火曜日の午後 **予約制**

いずれの相談も **TEL.354-8741**

### 高齢者110番

高齢者の様々な権利侵害などの相談  
月～土曜日 / 午前9時～午後9時30分  
日曜日・祝日 / 午前9時～午後5時

**TEL.354-8110**

## 人 輝いてます!

平成15年7月12日に開催された「第85回全国高等学校野球選手権記念京都大会」の開会式で、参加77校を代表して選手宣誓を行った京都韓国学園の主将、李良剛(イ・ヤンガン)さん。日本語と韓国語で「魂・感謝・感動」と宣誓し、スタンドは大きな拍手に包まれ、テレビやインターネットなどを通じて、日本中に感動を与えました。今回は、在日三世として生きる李さんの夢や野球に注ぐ情熱などをご紹介します。

# 野球を通して、国境や民族を超えた感動を伝えたい

## 自分たちが心を開けば 周りの人たちは理解してくれる

「1番くじを引いた時は、しまった」と思ったけれど僕たちが在日の人々のことや学校のことを知ってもらえるチャンスだと考えました。李さんは少し照れくさそうに京都大会の組み合わせ抽選会の感想を語ってくれました。

李さんが最初に「在日」であることを意識したのは、小学校3年生の時です。家族に連れられ、地域主催の民族学級などで韓国・朝鮮の伝統楽器や舞踊に親しんでいる時にお父さんから自分が在日三世であることを教えられたといいます。「たまたま先祖が韓国人だったというだけです。僕は日本で生活しているんだし、友達に内緒にしようとも思いませんでした」と李さんは振り返ります。中学2年生の時には学校の協力を得て、同じ「在日」の仲間6人と共に文化祭でチョゴリを着てチャンゴ(太鼓)やクエンガリチン(いずれもドラの一種)と呼ばれる民族楽器の演奏を披露しました。同級生からは「カッコいい!」「私も叩いてみたい」という声がか

せられ、自分たちが心を開けば、みんなも韓国・朝鮮の文化や伝統を理解してくれるということを実感したそうです。「民族学級で初めて僕のハングルの名前を覚えてもらいました。その時はもう一人の自分を知ったようで大変感動しました」と李さんは爽やかな笑顔を見せてくれました。

## 在日の仲間と共に 甲子園を目指して猛練習

大阪の公立中学校に通学していた李さんが、京都韓国学園への進学を考えるようになったのは、小さい頃から夢中で打ち込んでいた野球がきっかけでした。中学野球の大阪選抜チームの一員として韓国の済州(チェジュ)島に遠征した時、京都韓国学園の金健博(キム・コンバ)監督と知り合い、「一緒に甲子園を目指さないか」と声を掛けられたのです。京都韓国学園は野球の名門校ではありません。当時、李さんの元には多くの高校からスカウトの話があり、大変悩んだといいます。ご両親ともよく相談し、一生懸命に考えた末、「同じ民族の仲間たちと一緒に野球を始め、甲子園を目指したい」という大きな志を胸に抱き、京都韓国学園への進学を決めました。

入学後は、それまでの「青木良剛(あおき・よしまさ)」ではなく、「李良剛」を名乗ることにしました。また、韓国語の勉強にも本格的に取り組み、今では日常会話を不自由なくこなせるようになりました。「僕のおじいちゃんは、「在日」であることを特別に意識する必要はないと言っていたのですが、僕は自分の国の文化や伝統を大切に継承していきたいと思っています」と李さんは目を輝かせます。

野球部では俊足巧打を買われ、「1番センター」として活躍しました。残念ながら、李さんが入学してから強豪チームを相手に惜敗が続いていましたが、2年生の冬には2箇月間で「6万回素振りをする」という目標を掲げ、オフシーズンの間もチームメイト全員で夜遅くまで自主トレーニングに励みました。また、エラーやミスが出た時は居残り練習をするなど、金監督の厳しく熱心な指導の下、精神力と集中力の向上にも努めたそうです。「監督はお兄さんみたいな存在で、色々な相談に乗ってもらいました。怒られることも多かったけれど、その度に「今に見返してやるぞ」とて歯を食いしばって頑張ったんです」。

## 日本語と韓国語で選手宣誓 「魂・感謝・感動」

大会当日、参加77校の選手が勢揃いする西京極球場で、李さんはまず日本語で「魂・感謝・感動」、続いて韓国語で同じ意味の「オル・カムサ・カムドン」と大きな声で宣誓しました。すべてのプレーに全力を注ぐ「魂」と大会を支える人々への「感謝」を声高らかに唱い上げ、最後に韓国語で「国境と人種と争いを超え、一つになる高校野球の「感動」をここ京都から築いていきましょう」と力強く結ぶと、スタンドは大きな拍手に包まれました。「同じ民族でありながら、南北に分断されている祖国のことや「在日」として生きる自分たちのことを考えながら宣誓しました」。日本人も在日韓国・朝鮮人も関係なく拍手をもらえたのがうれしかったと、少し興奮気味に話してくれました。開会式終了後は、先生やチームメイト、友達が「すばらしい!」「良かった」と声を掛けてく

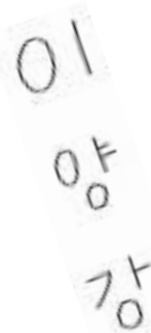


惜しくも敗戦し、相手校の校歌を聞く選手たち



さわやかに語る李良剛さん

「も2人の自分を知ったようで、大変感動しました(本文より) 李良剛さん本人が書いたハングル名



教職員の手で作られた横断幕の下、応援する人々

こうして迎えた高校3年生の最後の夏。京都大会の組み合わせ抽選会で、選手宣誓ができる1番くじを引き当てた時は感無量だったといいます。3日間、部長やチームメイトと相談しながら、寝る間を惜しんで宣誓文を考えましたが、お母さんの「正々堂々と素直な気持ちでやりなさい」という言葉で気持ちが楽になったそうです。「部長には、直前まで韓国語の発音練習に付き合ってもらいました」。

れたそうです。

京都大会では次々と強豪チームを打ち破り、初めてベスト8に進出しましたが、今大会の優勝校である平安高校に惜しくも敗退しました。「悔しいけれど、僕たちでも信念を持ってやればできるということが分かってもらえたと思います」。李さん

は、大学に進学しても野球を続け、高校時代に果たせなかった「日本一」を目指したいといいます。

「将来はシンガーソングライターになりたいんです」と、今どきの高校生らしい夢を話す李さん。そのどこまでも爽やかで明るい笑顔からは、将来を自らの力で切り拓いていこうとする一人のたくましい若者の姿を見ることができました。

写真提供:ACN社『KOREA TODAY』(2003年8月号掲載)から

# 市役所

保健福祉局  
障害企画課

## ぐるり探訪

### 障害のある人とない人が共生できる社会を目指して

京都市では 障害の有無にかかわらず すべての市民が個人として尊重され お互いに支え合い 安心して暮らせる共生社会の実現に向けた取組を進めていくため 平成15年3月「京都市障害者施策推進プラン」(平成15~24年度)を策定しました。このプランでは「福祉サービス」や「保健・医療」「相談支援と情報提供」など7つの分野で延べ143の具体的な項目を掲げ 障害のある人の人権の尊重を施策の基軸としながら 社会参加や施設整備などを推進しています。

障害のある人の立場や考え方は百人百様です。例えば 寄せられた手紙の中に「障害者」という言葉そのものに抵抗を感じる」という意見がありました。私たちが日常的に使っている言葉であっても 差別的に感じたり 心を痛める人がいることも忘れてはなりません。誰もが分け隔てなく暮らせるノーマライゼーション社会を実現していくために 障害のある人に対する理解と知識を深めることは大変重要なことです。

障害企画課では 毎年12月3~9日の「障害者週間」に市内11箇所です街頭キャンペーンを行うなど 広く市民の皆さんに向けて各種の啓発 広報に取り組んでいます。

また 毎年5月には西京極グラウンドで「京都市障害者体育大会」2月にはマキノスキー場で「スキー・雪あそびのついでい」など 様々なスポーツイベントも開催しています。スポーツイベントに参加されている方の目はいきいきと輝いており中には 普段のたゆまぬ練習で鍛え抜かれた肉体が 一流のアスリート選手のような美しさを感じさせる人もいます。車いすが体の一部となってダイナミックに疾走していく姿などを見て 懸命に応援したりしていると本当にいくいと引き込ま

京都市では 障害のある人もない人もすべての人が地域の中で 共に豊かに社会生活を営んでいくことができる ノーマライゼーション社会の実現を目指して 様々な取組を推進しています。今回は 障害者保健福祉のための具体的な施策についてご紹介します。



障害企画課  
話し手: 小谷康之

れます。この感動を一人でも多くの人に共感していただけるように これからも障害のある人もない人も みんなが一緒に楽しめる機会を積極的に作り出していかなければならないと考えています。

先日 これらのイベントに参加されている方から「日々は充実しており 楽しいが 将来に対する不安は常に感じている」と言われたことがあります。高齢化や核家族化の進展によって、



マキノスキー場で「スキー・雪あそびのついでい」風景

このように将来への不安を抱える方も増えています。京都市でも 障害のある人の権利擁護や福祉教育など 今日的な多様なニーズを反映した取組を

推進していますが 真のノーマライゼーション社会を実現するためには これらの取組だけでは十分ではありません。すべての障害のある人が心のどこかに持っておられる将来への不安を取り除き その瞬間、瞬間を精一杯前向きに生活することができてはじめて 障害のある人もない人もすべての人が等しく共生できるノーマライゼーション社会が実現できると思います。

そのためには 障害のある人の家族の方々の献身的な努力や行政の取組だけではなく 地域社会の理解と協力を欠かすことはできません。一人でも多くの地域の皆さんが「どうすれば障害のある人もない人もみんなと一緒にこの地域の中で豊かに生活していけるのか」ということをいつも考えながら 積極的にまちづくりにかかわっていただくことができるように これからも交流の促進や啓発活動に一生懸命取り組んでいきたいと思ひます。

### 身体障害者補助犬(盲導犬 介助犬 聴導犬)の同伴利用についてのお願い

身体障害者補助犬法の施行に伴い 平成14年10月から公共施設や公共交通機関での身体障害者補助犬の同伴利用が認められました。更に、15年10月からは ホテルやデパート レストラン等の民間施設でも認められることになりました。これらの施設関係者の方々及び市民の皆さんには 法の趣旨をご理解いただき 身体障害者補助犬の同伴利用にご協力ください。



皆さんのご協力をお願いします!

# コンサートや講演会を通して みんなで人権について考えてみませんか ヒューマンステージ・イン・キョウト

入場無料

平成16年3月6日[土]



シネマ 親子で楽しむシネマ

## ヒーロアンドステッチ

アニメ映画・日本語吹替え  
場所 みやこめっせ(第1展示場)  
時間 10:30~11:56(開場は10:00)  
定員:200名

人権トーク

## 「情報社会と人権」

1部 講演会  
講師:河野義行さん(「松本サリン事件」報道被害者)  
2部 フリートーク  
司会:木下明美さん(ジャーナリスト/コラムニスト)  
出演:浅野健一さん(ジャーナリスト/同志社大学教授)  
田畑重志さん(三重県人権問題研究所所員)  
河野義行さん



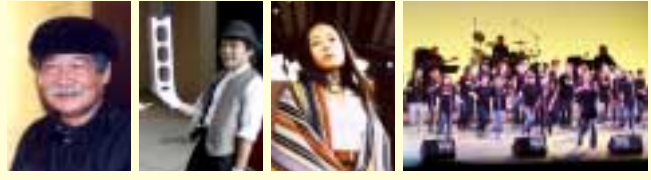
場所  
みやこめっせ(第1展示場)  
時間  
14:00~16:00(開場は13:30)  
定員:200名

申込方法 人権トーク及びコンサートは事前申込が必要  
ハガキ・FAXの場合 住所 氏名 電話番号 同伴者氏名(2名まで)と参加希望「人権トーク又はコンサート」(両方可)を明記のうえ、〒604-8571 京都市人権文化推進課 FAX 222-3194  
電話の場合 京都市人権文化推進課 ☎222-3381まで(受付時間/土・日・祝日を除く9:00~17:00)  
締切日/平成16年2月13日(金)必着(応募者多数の場合抽選)

コンサート

## ことばでつなぐみんなの思い

出演:常田富士男(朗読)  
いいむろなおき(パントマイム)  
Yae(歌と語り)  
Spiritual Choir of CAT(ゴスペル)



場所  
京都会館 第2ホール  
時間  
18:30~20:30(開場は18:00)  
定員:900名

問合せ先  
文化市民局人権文化推進課 ☎222-3381

## 京都市立北総合養護学校 竣工記念フェスティバル

平成16年4月に開校する京都市立北総合養護学校の竣工を祝うとともに、総合養護学校の教育や学校と地域のつながりを実感していただくために竣工記念フェスティバルを催します。

内容 全施設の公開 催しものや舞台発表などのイベント パネル・作品の展示  
平成15年 12月20日(土) 11:00~15:00  
21日(日)~23日(火・祝) 10:00~15:00 入場無料  
京都市立北総合養護学校(上京区堀川寺之内上る)

## 第26回 小さな巨匠展

京都市の小学校・中学校育成学級や養護学校の児童生徒が日頃の学習の中で制作した絵画 工芸 書道など約3000点を展示します。  
平成16年1月29日(木)~2月1日(日)  
9:00~17:00(入場は16:30まで) 入場無料  
京都市美術館 別館(左京区岡崎)

上記2事業の問合せ先/教育委員会養護育成課 ☎352-2285

## 12月9日は「障害者の日」です 障害者週間:12月3日(水)~9日(火)

京都市ではノーマライゼーションの理念の実現に向け 街頭キャンペーンや市長表彰及び講演会を行います。これを機に、障害の有無にかかわらず すべての市民がお互いを認め合い、支え合いながらいきいきと暮らせる社会の実現に向けて 市民の輪を広げていきましょう。

## 「障害者の日」市民啓発事業 12月6日(土)

街頭キャンペーン 10:00~11:00  
市長表彰と講演会 13:30~16:00  
各区のターミナルで実施 京都市アバンティホール  
問合せ先/保健福祉局障害企画課 ☎251-2385

## 障害者週間の催し 3日(水)~8日(月)

講演会/講師:谷口明広さん 自立生活問題研究所 所長  
各種体験講座 茶会など  
会場:京都市洛南身体障害者福祉会館(南区九条御前下る)  
問合せ先/京都市洛南身体障害者福祉会館 ☎691-2468

# 人権月間[各区役所・支所の催し]

事前申込不要(一部を除く) 手話通訳あり(映画を除く) 入場無料

12月	日時・場所	内容など 詳細については各区役所・支所の地域振興課までお問い合わせください。	
1[月]	13:30~ 京都会館会議場	<b>心のふれあいみんなの広場</b> ひとり芝居 「最期のひとこと」 お互いに尊敬することで、すべての差別から解放される 作:井上新二さん(第三錦林小学校校長) 出演:古森義和さん(同小学校教頭)	左京区役所 地域振興課 ☎ 771-4211
3[水]	14:00~ 下京区総合庁舎	<b>人権学習会</b> 講演:「愛が子どもを育てる」 講師:荘巖舜哉さん(大阪学院大学教授)	下京区役所 地域振興課 事前にお問い合わせください ☎ 371-7101
5[金]	13:30~ 東部文化会館	<b>公演と映画の集い</b> 一人芝居「冬の銀河」~エイズと闘うある血友病患者の訴え~ 出演:茅野明さん(俳優) 映画:「ハンセン病 剥奪された人権」	山科区役所 地域振興課 ☎ 592-3050
5[金]	14:00~ 東山区総合庁舎	<b>講演の集い</b> 講演:「いのち」を考える いじめと児童虐待の背後にある問題 講師:三好克之さん(京都新聞社論説委員)	東山区役所 地域振興課 ☎ 561-9114
5[金]	18:30~ アバンティホール	<b>人権シンポジウム「多文化共生と地域」</b> コーディネーター:仲尾宏さん(京都造形芸術大学客員教授) パネリスト:裴重慶さん(川崎市ふれあい館館長) 朴 実さん(東九条マダン実行委員長) 民族楽器演奏:東九条マダン	南区役所 地域振興課 ☎ 681-3111
6[土]	13:30~ 龍谷大学深草学舎	<b>人権を考える講演会 ~ふしみ人権の集い第2回学習会~</b> 講演:「わたしが変わる わたしが変える ~人と人とのつむぎなおし~」 講師:熊本理抄さん(近畿大学人権問題研究所)	深草支所 地域振興課 ☎ 642-3101
12[金]	13:00~ 北文化会館	<b>講演と映画のつどい</b> 講演:「いつまでもイキイキと豊かに暮らすために」 講師:桑原征平さん(関西テレビアナウンサー) 映画:「息子」	北区役所 地域振興課 ☎ 432-1181
12[金]	14:00~ 西陣織会館	<b>人権月間のつどい</b> 講演:「笑って・感じて・気付いて・変わる」 落語:「目覚めのススメ」 講師:桂文也さん(落語家)	上京区役所 地域振興課 ☎ 441-0111
13[土]	13:30~ 呉竹文化センター	<b>人権を考える映画会</b> アニメ映画:「ハッピーバースデー ~命かがやく瞬間~」 (原作:青木和雄さん)字幕有り	伏見区役所 地域振興課 ☎ 611-1101
14[日]	13:30~ 醍醐総合庁舎	<b>人権を考える講演会</b> 講演:「人権と差別の「しくみ」を考える 憲法をくらしに生かすために」 講師:内山一雄さん(前天理大学教授)	醍醐支所 地域振興課 ☎ 571-6135

なお 既に11月中に催しを行っていたり また 事前申込の期間が終了しているなどの理由で 掲載していない催しもありますのでご了承ください。

京都市内在住で60歳以上の方を対象とした無料講座を開催いたします。

人権月間  
特別講座

## ゴールデン・エイジ・アカデミー

講演:「ともに輝いて・生きる 私の取材ノートから」  
講師:福田雅子さん((財)世界人権問題研究センター主任研究員)

日時/平成15年12月5日(金)10:00~12:00  
会場/京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)  
中京区丸太町通七本松  
定員/600名  
申込/事前申込不要。当日直接会場へお越しください。  
問合せ先/生涯学習総合センター事業課 ☎ 812-7222

### 編集後記

「すべての人間は生まれながらにして自由でありかつ尊厳と権利とについて平等である」(世界人権宣言第1条)。2003年は基本的人権を具体化した「世界人権宣言」が国連で採択されてからちょうど55周年に当たる年です。奇しくも今年は国連があるニューヨークで 背番号55番を着けた一人の日本人が 国境や民族を超え 多くの人々に感動と勇気を与えました。  
12月は人権月間です。身近で催される人権のイベントなどに積極的に参加していただき もう一度 家庭や職場 地域などでこの宣言の精神とその意義を確認されてはいかがでしょうか。(KEN)

### 同じです あなたとわたしの 大切さ

ひと・まち・ロマン  元気都市・京都

発行日 平成15年12月1日  
発行 京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課  
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地  
☎ 075(222)3381  
<http://www.city.kyoto.jp/bunshi/jinken/index.html>  
京都市印刷物第153068号

本誌は 年3回(5月 8月 12月)発行します。区役所・支所の地域振興課 市役所の市政案内所ほかで配布しています。郵送をご希望の方は 返信用切手(140円分)を同封のうえ 京都市人権文化推進課までお申し込みください。